

新成人の主張

「優しくであふれる、私のふるさと」

私が、十八年間生きてきた川根本町というふるさとを出て、二年がたとうとしています。この町から出た、約二年間の大学生活の中で気づいたことが二つあります。

一つ目は、川根本町は町民だけではなく、多くの人々に愛される町だということ。川根本町出身だと言えば、「行ったことあるよ。すてきなことだった。」「トーマスが走っ

てるところでしょ。行ってみたい。」そんな言葉をもらいます。そのたびに私は川根本町を誇らしく思い、改めて川根本町が大好きなんだ、ということに気づきました。

二つ目は、どんな場所においても、優しい人たちがばかりだということ。私は、川根本町で過ごした十八年間、たくさんの優しさに触れてきました。私の地域は大きな家族のようで、昔か



石原詩歩美さん(崎平)

らたくさんのおじいちゃん、おばあちゃんがいきました。そして、本当の孫の様にたくさんかわいがってもらいました。いつでも誰かが見守ってくれている、通学路を通り、学校に行けば、自分では気づかない私の良さを見いだしてくれる先生方や、私のすべてを受け入れてくれる友人たちがいました。厳しい部活動と勉強ばかりの青春も最高だと思える私の居場所がそこにありました。そんな、温かい場所です。育ってきたからこそ、新しい地で生活を始めたとき、正直私は不安でいっぱいでした。しかし、そんな不安もすぐに消えました。大学では沢山のすてきな出会いに恵まれ、多くの人たちの優しさを感じています。体調が悪いときにずっと背中をさすってくれる友人や、川根が新聞に出ていたという、新聞記事を切り取って持ってきてくれる友人がいます。私の苦手を克服させようと、日が暮れるまで自主練につきあってくれる部活の仲間や、私の悩みを朝まで聞いてくれる友人がいます。苦しいとき、「いつでも味方だよ。」と言ってくれる人も居ます。多くの人の優しさに触れて、今も私は温かい場所です。生きています。

先生が、地域の人たちが、今まで出会った人々が愛情を持って、優しさを与えてもらえる人間に、優しさや温かさに気づくことのできる人間に、私のことを育ててくれたからだと思います。そんな全ての人に、心から感謝しています。

私は今、静岡大学教育学部で特別支援について学んでいます。様々な人々が生きている世の中で、障がいのある人、セクシャルマイノリティの人々など、時に少数派になってしまっている人々を、誰かが見守り、誰かが生かす世の中とは、どんな世の中だろうと考えます。きっとそれは、誰もが、人の温かさに触れながら生きることができ、たとえ苦しいことがあっても、自分が自分であること肯定する瞬間が必ず訪れる世の中なのではないでしょうか。川根本町は温かい町です。私はこの町で将来教師として、子どもたちに多くのすてきな出会いをしてほしい、そして優しさを感じることで心を開き、育てたいと強く思います。また、偶然少数派になってしまった人々、劣等感を感じてしまったり、自信が持てなかつたりする人々を、思いやりの心で包み込める世の中を、この、私のふるさと川根本町からつくってきたい。そう思います。

新成人からのメッセージ



- 藺田紳一路さん (梅高)
- 石川直輝さん (徳山)
- 和田新さん (田野口)
- 川畑賢太郎さん (崎平)
- 澤井優香子さん (久野崎)
- 氣田瞬介さん (下京) ※フランスに居る友達へ
- 佐渡風香さん (寺島)
- 望月美玖さん (田代)
- 小澤知佳さん (下長尾)
- 山口風香さん (崎川)
- 藺田久美さん (上長尾)
- 小田桃香さん (藤川)

- 式典司会 中村斗麻さん (川根高)
- 記念行事司会 細田佳代子さん (島田高)
- 国歌斉唱指揮 中村芳乃香さん (中川根中)
- 国歌斉唱伴奏 相藤里緒さん (中川根中)

★未来の新成人も式典に協力してくれました★

～お祝いの言葉～

- 受付は中学生が行いました
- 「思い描ける未来に向けて頑張っていきたい」 中村美桜さん (中川根南部小)
- 「町に活気があふれるよう頑張りたい」 春田浩奈さん (本川根中)
- 「地域の伝統に連なり貢献していく大人に」 上田虎之介さん (川根高)